

ICOFORT NSC 金沢ワークショップ 2025 「近世東アジアの城郭を比較する」

日 時：2025 年 7 月 26 日（土）13:30～17:00

会 場：石川県教育会館

主 催：ICOMOS-ICOFORT、ICOFORT 国内委員会

共 催：一般社団法人 日本建築文化保存協会

後 援：金沢市

■パネルディスカッション

モデレーター：大田省一（京都工芸繊維大学准教授）

パネラー：趙斗元（国際 ICOFORT 委員長）

中井均（滋賀県立大学名誉教授）

麓和善（名古屋工業大学名誉教授）

矢野和之（日本 ICOMOS 国内委員会事務局長）



パネルディスカッションの様子（左から、大田、趙、岡崎、中井、麓、矢野）（敬称略）

大田

最初に、ここにいらっしゃる先生方のご紹介をいたします。私に近い方から、国際ICOFORT 委員長の趙斗元先生、本日の総合司会の岡崎瑠美先生です。続いて、滋賀県立大学の名誉教授中井均先生、名古屋工業大学の名誉教授麓和善先生、日本イコモス国内委員会事務局長矢野和之先生、以上です。よろしくお願いいたします。

まずは、本日の発表を受けまして、感じられたことやご意見など、順番にお伺いしたいと思います。中井先生からお願いします。

中井

はい、皆さんの発表を興味深く伺いました。とりわけですね、例えば、佐藤先生のお話で、建築に関するものが少ないというのは、まさに、軍学というのが土木に集中しているんだろことが、よくわかるんじゃないですかね。幕府が編纂というか、命じた正保城絵図も、どちらかという、やはり堀の幅であったり、土塁の高さであったり、石垣の高さを描くということなので、どうも軍学とか兵学というのは土木と言いますか、普請の方を意識しているというのが、ああいった軍学書からも読み取られるということが、すごく興味深かったです。

それから金先生のお話で、朝鮮王朝が満州の影響で、攻めてこられたというのと、もう1つは、やはり文禄・慶長の役といいますか、壬辰倭乱というものがあって、壬辰戦争の後に朝鮮王朝の武官たちが「蛮制に見習う」、要するに日本式の城を築いてはどうか、というようなことを言っている事例があるので、軍政改革の中で結局は実現しなかったのかもしれませんが、日本式の城制、いわゆる「蛮制」というものを採用すべきだ、というのがあって、ひょっとすると南漢山城の石垣なんかに、そういうものが見られるのかもしれないな、と思いました。

それから、冨田先生のお話で、やはり、日本の近世の城の一番の面白さは、面白さという言い方をしているのかどうかわかりませんが、興味深いのは、築城当初は当然、軍事的な施設、つまり防御施設としてつくったものが、17世紀の初頭ぐらいから、同じ城という防御施設が政庁に変化していくというあたりが、すごくやはり日本の近世の城のある意味、特徴になるのかもしれない。

今、彦根城が世界遺産の登録を目指しているのですが、それも城というよりも、幕藩体制のシステムが分かるということですね。つまり、軍事としてつくられたものが、元和偃武以降も、軍事がなくなった中で、儀礼や政治の空間に変化していく。場所も本丸から二の丸に移っていくとか、それから彦根城もそうだったのですが、大臣の武家地を外に出していくというようなことですね。そういうものが、金沢でも窺えたということで、日本の近世の城のあり方を考える大きな印象を、金沢城の話で得ることができました。

大田

どうもありがとうございます。引き続きまして、麓先生にお願いいたします。

麓

最初に三宅先生から、日中韓の漢字文化圏における城郭の様相ということで、城の持つ概念などのお話をいただいて、そもそも、中国が起源となって、城というのは都市を守るための城壁等を築いて、都市の中にいる人民を守るものだという、そういう概念からスタートして、中国ではずっとそうあり続けて、それと同様のものが韓国にもつくられた。比較的、中国と韓国は、城に対する概念が似ているのかなと思います。

ところが、それに対して日本はどうかというと、最後の冨田先生の金沢城の例が非常に典型的で良い例ですけれども、「惣構え」と言って、いわゆる城郭の中枢部分の外側に二重に堀を巡らせていても、それは武家地ぐらいまでであって、その外の、商人地であるとか町人地であるとか、そういうところまでは含まれていない。そして、初期は天守がつくられたけれども、金沢城の場合は焼失した。大火で大きく3回、城の様相が変わるわけですが、当初は天守がつくられたのが、焼失した後は再建されなかった。その後、御殿が拡張しながら、本丸から二の丸へと移して拡張しながら、金沢城の中枢として必要なものだった。それは政治を行う場所、城が藩主の住まいであると同時に、政治をする場所として、藩政を執り行う場所として非常に重要なので、御殿が拡大していった、重要視されたということなんですね。

そうすると、もともと日本の近世城郭というのは、私は常々いろんなところで申し上げているんですが、信長が安土城を築いて天主をつくったとき、併せて安土に城下町がつくられるわけですが、信長の権力の大きさと、安土城下の繁栄のシンボルとして天主がある。御殿は政治を行う場所である。天守は、象徴性の意味があったんですが、でも江戸城、寛永につくられた江戸城天守が、これまた大火で焼失した後は、もう権力の大きさを表すものを建てる必要がなくて、むしろ政治を行う場所である御殿のみを再建したことからも分かるように、軍事的な目的というよりも、政治を行う場所として城は重視された。城の機能が政治を行う場所が変わってくる。そうするとですね、むしろ城の持つ意匠性、御殿も非常に華やかな建物ですが、軍事性であれば、防御のための必要な施設が必要になるんでしょうけど、それをもっと「見せる」場所ということになる。巨石を用いたり、あるいは金沢城の短冊石垣のような意匠的に優れた石垣を見せる。それは穴太（石工）の技術の技を見せる、ということにもなるわけです。このように変わってくる。

ただし、それはあくまでも政庁の場所という見方であって、それでも江戸時代になっても、佐藤先生のお話にあったような軍学書というものは常に編纂出版されて、そこ

で陣形であるとか城の堀とか、土塁、石垣をどう築くとか、防御施設として重要な堀や石垣、および戦の時の陣形を整えるような、そういうことは学問的に発達している。それで、むしろ建築が描かれないのは、これはある意味、幕府の統治の仕方とも関係があって、城の土木的な堀や石垣の修理というのは、『武家諸法度』で定められて幕府に届け出をする必要があった。ただし建築については、特に届け出なくてもいい。そういう建築に対する軍事的な意味合いがそれほどなくなっていることが、軍学書の中にも表れているんだろうな、というふうに思いました。

それと、呂先生のご発表で、中国では近代になって非常に重要な軍事的な施設として砲台をつくるのですが、全く西洋式な砲台なのですが、そこにつくられた建築物がスライドを拝見する限り、中国式の建物なんですね。それを拝見したら、やはり中国という国の特殊性がそこに現れているのだな、と思いました。日本は明治期にヨーロッパの近代的な軍事施設を導入してから、建物までヨーロッパ式に変わるんですけども、中国ではその建築物が、中国式だなというのが、非常に注目すべき点でした。

大田

ありがとうございます。続いて矢野先生にお願いいたします。

矢野

私はもともと、重要文化財の修理や史跡整備の設計監理などを行っていて、ヨーロッパでいえば、コンサベーションアーキテクトという職業ですが、職業柄、いろんなものを見ていて、当然、城郭に関しても、いろいろな形で関わっております。今日、私が一番印象的だったのは、近代の砲台が出てきたことでした。というのはですね、日本も幕末から明治・大正にかけて、砲台をいろんな形でつくっているんですね。ある程度は史跡になっている部分もあるんですが、実は近代の軍事施設というのは、まだちゃんとした報告書が出ておりません。それはおそらく、やはりいろいろセンシティブな問題を孕むということもあるので、ものはたくさん残っているし、調査もされつつあるのですが、ちゃんとした報告書が出てないという状況です。

20 年以上前ですかね、文化庁が近代遺跡の調査をやるときに、軍事関係というのは一番最後なんじゃないかな、と私は思ったんですけど、その時、意外と最初にやろうということになりましたが、結局まだ最終的な報告書としては出てきていない。

今回、呂先生のレポートが出てきて、おそらく日本と比較することも結構あるのかなと思いました。先ほど、麓先生も言われたように、どれだけ中国の技術、それから西洋の技術が、どういうふうに混じっているのか、ということも興味がありますし、日本の場合も、西洋の技術をそのまま取り入れている部分もあるし、石垣のようなものは、

かなり日本のもともとの技術もベースになるところもある。ですから、これらの比較研究は、非常に面白いテーマに将来的にはなると思っています。

先ほど申しましたように、近代にはやはり、戦争もあつたり、いろんなことがありましたんで、なかなか先に進まない部分もあるかもしれませんが、学術的な調査、およびその分析が、もうそろそろ、ちゃんとやるべきじゃないかなと思っています。今日はそういう話が出てきましたので、非常に重要な対象になるのかなと思った次第です。

大田

3人の先生方、どうもありがとうございました。ここで中井先生との麓先生からいただいたお話は、多岐にわたりましたが、土木の優先ですとか、城の捉え方ということも挙げていただきました。そもそも日中韓で比較する意味について、まず日本側からいえば、城とか城下町を国際的に見てどう捉えられるのかという問題があります。日本の都市では、城と城下町をつくりましたが、戦国から江戸初期にかけてつくったものがそのまま、金沢もそうですし、多くの地方都市の基盤になっているところがあります。これを国際的に見て、どういうふうに捉えることができるのか。

その中で、やはり軍事のシンボルであった城がどうなったか。城郭というものが、天下泰平の時代になって、政庁としての役割の方が強くなっていきます。先ほど冨田先生からお話しいただいたように、城そのものが、時代に合わせて改造されるということが起こる。こういうところを具体的に見られるようになって、現在では情報も非常に増えてきたなというふうに思いました。

ただ、実は天下泰平だったのは日本だけではなくて、中国でも朝鮮半島でも、基本的には、近世は泰平な時代が続いたということもあります。そこで、今日はせっかく趙先生にお越しいただいているので、少しご意見を伺いたいと思います。朝鮮王朝時代について、今日ご発表いただきましたのは軍事的な話がメインでした。秀吉と満州族の皇太極の攻撃を受けた後の変化をお話いただきましたけれども、朝鮮王朝時代の平和な時代になってから、城郭の役割がどうあったのか、ということについては、いかがでしょうか。

趙斗元

I'm sorry, I cannot understand Japanese very well. Also, I need you to understand it kindly in advance. I'm speaking on behalf of ICOFORT. Additionally, I can be considered one of them, as a Korean fortification expert. That's why I am simply sharing my opinion and overview regarding fortifications and military heritage and, in fact, the overall world heritage context. I have heard why this military aspect and government aspect are important for the formation of military heritage.

In the Korean cases, this military aspect cannot be separated from the governing aspect. That's why there is a connection between the military sector and the governing sector. For example, we can discuss on attributes that reflect the authenticity of a heritage site. The World Heritage Namhansanseong has three distinct attributes. One of them is the governing landscape component, and another is the military landscape component. These elements are integrated within one encircled area on the mountain. They served as an emergency capital during the Joseon Dynasty. You might also recall Professor Kim Youngsoo's excellent presentation—thank you again. We faced very difficult times, such as the two major invasions from the north and south—the Japanese invasion of Korea and the Chinese invasion of Korea. These occurred in the late 16th and 17th centuries, forcing us to reconstruct the nation and the military system, including governance. The military system was supported and subordinated to the governing system. That's why the military played a crucial role during such severe times—it was for the people. This is why the residential area and the residential aspect are very important. Sometimes, the entire system had to be reconstructed or reorganized. Regarding Hanyang, the capital, the name 'Capital fortifications of Hanyang' is part of the World Heritage nomination process. Korea is preparing for this. It is a clear example of how the capital defense system was crystallized. We have a long tradition dating back to the ancient kingdom era, through the Unified Silla, Goryeo, and Joseon dynasties. Due to many invasions from outside forces, the capital's structure was often reconstructed or fortified. We also have flat land fortresses where palace structures, ordinary people, and officials lived together. During emergencies, such as wartime, people had to evacuate beyond the city to mountain areas—prepared in advance. That's why Professor Kim used the term 'shelter fortress.'

During the Mongol invasion, they also had a military strategy and an evacuation policy. They escaped or evacuated to isolated islands. This island evacuation policy is conducted during the Goryeo Dynasty. In summary, the military aspect was combined with governance for the people who served in these functions. This is my opinion.

So, if I may, I'd like to share some impressions. Today in the morning at Kanazawa Castle, for example, we first visited this landscape wall structure. It was combined with a very strong fortification structure and then a garden landscape. I have never seen such a transition area between a military and a garden setting before. The fortress wall, I believe, serves a military function as a lookout. Then, it appears to be built for a waterfall structure, doesn't it? That's why this point has two different aspects. I think it's unique. It made a very good impression. That's also why it can be distinguished from other parts of Japanese castles.

Professor Riichi Miyake discussed terminology related to military landscapes. For example, regarding tenshu, I see that this tenshu has a very similar structure from an outside perspective. However, you must verify which components to include in the symbolic area and determine from where the tenshu should be regulated within the landscape perspective. This is very important. During the 47th World Heritage Committee this year, many nominations were submitted. The Martha military landscapes were nominated and inscribed, but it has very different associated elements. The issue arises when insisting that all components—element, structure, and network—must be included in the property zone. That's why the aspect of the military landscape is to be handled very accurately.

On the other hand, Professor Lyu Haiping provides excellent presentations about the fortified landscape. That's why many primary, secondary, and tertiary ports, along with outposts, should be included in the appropriate tension. It also aligns well with our ICOMOS guidelines on military heritage. These guidelines were adopted during the ICOMOS General Assembly in 2021. Then, to enhance understanding, consider the power of associated military elements. Is Seefu Fort listed on the World Heritage Tentative List? It could be. I believe so. We can discuss it further tomorrow. Maybe it's a tower, like a sentry tower or corner tower, Ma-min can be defined. Lookout, battery, bastion in general, and Onseong (Outwork), it is indeed considered military facilities. In Korea, Namhansanseong is a notable case. There are also many influences from Russia, where they invented artificial military structures such as batteries or bastions. One of these could be applicable to your work.

On the other hand, Professor Sato, thank you so much for every wonderful and excellent drawings. They help make many difficult terminologies easier to understand. It can also be compared to the Korean cases. Hwaseong Seongyeok Uigwe is the royal protocol for the construction of Hwaseong Fortress. It also includes nine different volumes. For example, non-defined terminology, such as the entrance area of the castle, can be discussed tomorrow to define.

And then, lastly, during the site visit, we observed a machicolation at the entrance area. This structure is built on the floor, in the protruding window at the entrance, to serve as a defense or resistance measure against enemy support during wartime. It is not only presented in Japanese, Korean, and Chinese military heritage sites, but also can be found in European countries, as they have similar elements to the military tactics. These structures serve similar functions. Yes, we can discuss this tomorrow. Thank you very much.

大田

趙先生どうありがとうございました。時間がないので幾つか割愛させていただきますが、朝鮮王朝でも、もちろん平和な時代もあったんですが、ただし、軍事と政治というのは常に組み込まれたものなので、そう簡単には分けられない、ということをおっしゃっていただきました。

そもそも、朝鮮半島では、外敵に攻められたことが非常にたくさんあって、朝鮮王朝以前にも、高麗王朝はモンゴルに攻められた時に江華島に逃げた経験もあります。そのため軍事と政治は常に一緒に考える必要があります、簡単には分けることができませんでした。さらに、ソウルの例、漢陽都城の例でもありましたけれども、王は民とともに逃げる、ということです。「王は常に民とともにある」という点では、政治の中での軍事として考える必要がある、ということを述べられたかと思います。

それから、金沢の印象についても述べていただきました。やはり玉泉院丸の石垣のことが印象的であったとのこと。滝も組み込まれていて、本来は軍事的なシンボルですが、美的な観点が添えられていることが非常に印象的だったとおっしゃっていただきました。日本の城郭については、天守のシンボル性もよく理解していただいています。例えば世界遺産的な視点から、ミリタリーランドスケープという観点ではどう捉えられるか。マルタ島の例など、ヨーロッパの例も合わせてご紹介いただきました。そうなりますと、日本の天守をシンボルとした城郭というのは、どのように周りの景観として眺められてきたのか。そういうようなことも、これからもっとプレゼンするべきということになります。それから、先ほどの矢野先生のお話にも個別にコメントをいただいたんですけども、時間の関係で割愛させていただきます。申し訳ありません。

趙先生のおっしゃられたことと、矢野先生、麓先生のお話との関連で言いますと、軍事が学問化した、ということがあります。科挙にも文官と武官の試験がありましたし、軍事をトレーニングして学問化していくということが、現場の中での一つの側面であり、重要な点であったのだらうと思います。それは太平の世でも変わらないところで、このことは、おそらく日本でも言えると思います。近代の中国の軍事施設の話もありましたけど、これは（ICOMOS 軍事遺産のガイドラインに照らしても）意味のある問題です。この要塞は世界遺産暫定リストに載せているのでしょうか。これらの施設は遺産としてどのように認識できるか、これから（明日の打ち合わせでも）議論できるだらう、とのこと。

中国の砲台の建物が中国的だという話がありましたが、私から付け足して申し上げると、日本でも、五稜郭では建物は和風ですね。やはり旧体制がつくるとそういうこともあるのかな、と思います。

まとまらないままで申し訳ありませんが、時間の関係で、もう締めなければなりません。本日は、金沢の実際の城郭を中国・韓国の先生に見ていただいたことで、我々も

多くの共通する視点を得られたと思います。我々の方は明日も作業部会が続きますので、これからも検討を続けたいと思います。これでこちらのシンポジウムは締めさせていただきます。どうもありがとうございました。

岡崎

それではこれもちまして、本日の ICOFORT-NSC ワークショップを閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

以上